

タイトル	2025 年度学校推薦型選抜 共同教育学部 教育人間科学系 教育専攻 小論文問題
解答例	【解答例】 問１：１学期最後の作文の「圧をかけられて」、「最悪な気持ち」といった句だけを読むと、筆者とＡさんとの関係はかなり悪いとも読める。しかし、５年生が、担任に読まれるという前提の作文でこうしたことが書ける背景には、「正直な気持ちを書いても叱られない」という安心感が前提にあると考えられる。したがって、筆者とＡさんとの間には、４年生の時から積み重ねにもとづく信頼関係があると考えられる。（187 字） 問２：筆者自身は、「拒否の自由」という視点で自らの指導をとらえなおしたいとしている。今回の指導でいえば、教師の思いとしては、一人の児童に十分に時間をかけられる夏休みは、個別指導の絶好のタイミングであったが、Ａさんにとっては、夏休みの楽しさに水を差される「最悪」な事態であったのかもしれない。その意味では、「今は」やりたくない、という思いをいったん受け止めることは必要だったのだろう。とはいえ、計算の学習をいつまでも拒否し続けることを認めるわけにはいかない。 そこで、私なりの指導の工夫としては、まず、Ａさんにとって、「書くこと」に比べて「計算」の困難さはどう違い、またその学習に対する拒絶感は何だけのものなのかをていねいに把握することを試みたい。たとえば、授業中に出す計算問題について、Ａさんが途中まではできそうなものを含めておき、その問題について、どこが分からないかを一対一でのやり取りで確かめたり、問題の続きを一緒に解いてみたりすることで、多少なりとも困難への取り組みを支援できないだろうか。 あるいは、Ａさん自身が計算問題をやってみようと思えるようにするため、同じように計算に困難を感じている児童とのグループ学習を組織することも考えられる。自分だけができない、自分だけがみんなと別のことをするというのは、やはり心理的な抵抗が大きいと思われるからである。（575 字）
評価のポイント	【評価のポイント】 ある小学校教師が、書字困難など学習困難を抱える児童に対する自らの指導を省察した文章から出題した。 前半では、４年生時、課題の評価をめぐる、単に○・×をつけて終了ではなく、問いをめぐる思考過程について聞かせてほしいという教師からの要求に対し、当該の児童も理解を示し、自ら指導を求めるようになった過程と、「書くこと」に対する抵抗が減じてきた様子が語られる。 後半では、５年生時、前年度の成果をもとに、今度は計算についての困難と向き合わせようとした教師の意図と、当該の児童の思いとのすれ違いが語られる。

この論考をもとに、以下の点を重視し、総合的な思考力、表現力の面から評価を行った。

- ・問1については、文章全体から、筆者（教師）と児童（Aさん）との関係についての的確に読み取れているか。とくに最後のAさんの叙述について、「圧をかけられて」、「最悪な気持ち」を字義通り表面的に捉えるのではなく、こうしたことを率直に書けることが示唆する教師との関係について気づけているかを重視して評価した。
- ・問2については、筆者のそれまでの指導について、単純に「成功」、「失敗」と一括するのではなく、それまでの指導のうちで有効だった部分、改めるべき部分を切り分けるなどした上で、受験生なりの工夫を提案できているかどうかを重点的に評価した。
- ・原稿用紙の使い方、誤字脱字、文のねじれなど表現の形式面で問題がないか。

出典：石垣雅也：「子どもの事実」と学習指導——安心と自尊心を手がかりに、『教育』No. 923, 87-88 ページ。

タイトル	2025 年度 学校推薦型選抜 共同教育学部 教育人間科学系 教育専攻 面接問題
評価の ポイント	(面接) ・ 志望動機，大学や専攻についての知識，その他の教育関係の質問に対し，的確に自身の意見が述べられているか。 ・ 自身の回答に対する面接者からの追加質問に的確に応答できているか。